

第1回古賀市公共交通活性化委員会 会議録（要点筆記）

開催日時	平成26年6月27日（金） 14:00～16:00		
開催場所	市役所 第二庁舎 中会議室	公開の可否	可
事務局	総務部 経営企画課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	鈴木裕介委員長 嘉村英夫委員、後藤昭一委員、辻政明委員、前田実委員、佐藤正昭委員 今村貞純委員、廣池正一委員、河村正彦委員、坂崎隆一委員、松崎文夫委員 三坂明子委員、渡利和之委員、藤本芳博委員、高原朱美委員	
	事務局	竹下市長、横田総務部長 河北経営企画課長、小湊経営企画係長、藤本係員	
	その他		
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議及び会議録の取扱いについて ・ 古賀市の公共交通の現状について ・ 公共交通に関する市民アンケートについて 		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ レジメ ・ 古賀市公共交通活性化委員会要綱 ・ 委員名簿 ・ 傍聴要領 ・ 公共交通に関する調査研究報告書 ・ 平成26年度古賀市バス路線図 ・ 古賀駅前（古賀駅東口）からの所要時間と運賃 ・ 古賀市内路線バス時刻表 ・ 古賀市内の公共交通に関するアンケート調査（案） 		

○次第

1. 市長あいさつ
2. 委嘱書交付
3. 自己紹介
4. 委員長の選任
 - ・九州産業大学准教授 鈴木裕介氏に決定

第1回古賀市公共交通活性化委員会（会議概要）

5. 会議及び会議録の取扱いについて

（事務局）

- ・会議の公開について、「古賀市情報公開条例」により基本的には公開となるが、出席委員の3分の2以上の同意で非公開とできることから、この会議の公開、非公開について議論いただきたい。また、会議録については要点筆記、委員の氏名は記載せず、その承認については、郵送、FAX等で送付し、書面で回答をいただきたいとの説明。

（委員長）

- ・会議の公開、非公開、会議録の取扱いについてご意見はないか。

（委員）

- ・議事録についてはメールで送信していただくようお願いしたい。

（委員長）

- ・その他にご意見、質問等ないか

（一同異議なし）

（委員長）

- ・その他、特に異論はないようなので会議は公開とし、会議録などの取扱いについては、事務局の説明どおりとする。

6. 議題

(1) 古賀市の公共交通の現状について

(事務局)

- ・資料「公共交通に関する調査研究報告書」に基づき、その要点についてのみ説明。

(委員長)

- ・事務局から説明のあった古賀市の公共交通の現状について、委員の皆さんの率直なご意見をお聞きしたい。補助金が年々増加する一方で利用者の増加は見られないという現状の中で、利用者のニーズと現状の路線バスのサービス水準があっておらずそこが1番の問題ではないか。一般的に重要なニーズであるルート、便数、運賃がニーズにあっているのか、その点を中心にご意見をお願いしたい。

(委員)

- ・財政的には西鉄バスに補助を行う現在の体制がよいのではないかと。ただ、古賀市を走っているバスは39人乗りで、14～15人乗れば採算がとれるという話を聞いたことがあるが、そんなに乗っているのを見たことがない。コスト削減の意味からも次の更新の際には、もう少し小さなバスにしてはどうか。

(委員)

- ・毎朝、通学の時間帯でもバスには3、4人しか乗っていない。マイクロバスでもよいのではないかと。西鉄バスに補助するという方法で良いと思う。便数が増えれば市民の理解も得られると思う。

(委員)

- ・日頃、バスが走っているのを見ても、ししぶ駅を経由するバスは非常に利用者が少なく4、5人しか乗っていない。路線は違うが福工大前を通るバスは混んでいる。経費削減の意味からももう少し小さなバスでもよいのではないかと。

(委員)

- ・千鳥駅周辺でも大型バスに2、3人しか乗っていないような状況。バスを駅中心に運行するのか、公共施設や店舗、病院などを中心に運行するのかなど、集中させる必要があるのではないかと。

(委員)

- ・舞の里は7時から8時の利用者は多いがそれ以降は少ないため、大型と小型とでバスを変えてもらった方が良い。

(委員)

- ・現在の日本全体の財政赤字の中での、地方財政の状況も厳しいものがある。
利用者のニーズは多いが、財政状況、経営効率を考慮しないと大変なことになる。
私たちは市民からの視点として、こうして欲しいというニーズと客観的な視点から全体的な財政のことの2つについて考えながら、よい案を検討していけたら良いのではないかと思う。ニーズにあった運行でも財政が続かなくて突然運行されなくなったときには地域住民にとっては大きな痛手である。そうならないためにも全体的なこととも考える必要があると思う。

(委員)

- ・地域によってニーズも違う。現在のニーズ、5年後、10年後のニーズも変わるので、それに合わせた対策を考える必要がある。スクールバスを利用するなど本来はこんな使い方だけど、こんな使い方もOKです、というような他分野の制度を利用するなどの横断的な検討も必要ではないか。一概に古賀市がどうだということではなく地域特性にあったものを考える機会が生まれればよいと思う。地域的なニーズのリサーチが必要。

(委員)

- ・毎日1回バスに乗るが18時の古賀駅行きには1人しか乗っていない。ダイヤの設定は地域住民の気持ちを考えて設定しているのか。
谷山や筵内の高齢の女性は買い物が不自由なため福岡市や福津市に転出している。
バスを利用したい人のニーズを把握しないと適切な方針は出ない。高齢化が進む中において、社会福祉という視点から公共交通を考えないといけない。経営の問題として考えると止めてしまうということになる。

(委員)

- ・周りの人に話を聞くと、住みやすい町になっていないのではないかという意見を聞く。年をとって車の所有を止める人が多くなっている。そうなると公共交通が必要になるが、今の西鉄バスは乗り継ぎが必要なので大変。天神に行くのは容易だが、青柳とかには車がないと行けない。買い物や病院、そして古賀の良いところなどを回りたいので、小さなバスで色んなところを細かく走らせるコミュニティバスがいい。その方がみんなも喜んでくれると思う。

(委員)

- ・皆さんの意見を聞いて、バスの現実については同感である。
平成21年からルートが殆ど変わっていないということは、町のつくりが変わって

いないのではないかと思います。その中で交通空白地の500mは直線での距離なので実際の経路では500mを超えるところがあると思われ、不便なところがあると思われる。そのため、バス停の配置、路線の設定については考え直しても良いのではないかと。

目的や地域に合わせた交通の拠点を設定するのも1つの方法ではないか。

採算についても、運転手さんの配置など難しい点もあるので、運賃という点からすると均一運賃にすれば、どこで採算が取れるのかは分かりやすくなるのではないかと。便数に関しては足りないと思う。1時間に1本で8時間、往復で16本はないと不便かなと思う。現状は多くて18本ということで利用するには非常に不便だと感じる。財政面を気にしないといけませんが、コストカットするのではなく、利用を増やすということもある。

全体のまちづくりということ踏まえて、高齢者の福祉バスであるとか、スクールバスの利用も含めて検討するとか、できるかどうかは分からないがバス停も路線も一度白紙に戻して考え直すぐらいの検討をしても良いのではないかと。

(委員)

- ・日吉台方面は朝はそれなりに乗っているが、昼は乗っていない。
財政的な面では、燃料費も上がっているので、小型バスにしたらどうなるのかというのを掘り下げて検討してみてもどうか。

(委員)

- ・私の住んでいるところは便利だが、山部は違うし、バス停まで500mも距離がない地域でも坂道であったりして、物理的にきついということもある。小竹地区など公民館に行くことすら大変な地域がある。高齢者がどうしても外出しないといけなは医療機関の受診や買い物であり、それは個人それぞれの時間であり、バスの時間に合わせる事が困難。いろんなバスを使うなど柔軟な発想も必要ではないか。

(委員)

- ・公共交通に関しては、単なる維持、確保というネガティブな成果だけが求められているのではない。まちづくりと密接不可分であり、どんなまちづくりをするのかという点において、公共交通が大事な役割を果たしている自治体が多い。まちづくりをどのようにしたいというのがあって、公共交通をこのように整理したいと考えるのが自然である。

ニーズとターゲットの把握をしっかりしている自治体が成功している。

少子高齢化といって必ずしもニーズが減るとは限らない、拾い上げられていないニーズがある可能性もあるので担当者、関係者の丹念なニーズの拾い上げが重要であ

る。

便数については、普通は利用者が少ないと減らしていくところを、逆に少しだけコストをかけて便数を増やして、乗ってもらうという方法もある。一方的な考え方だけでなく前向きにコストをかけて最終的にはコストが減っていくという事例もある。バスの基本コンテンツが4つあって、路線、ダイヤ、乗降施設、車両を地域の特性に合わせて選択していく。

バスの小型化については、バスは最大の乗車に合わせている。バスを変えるというのはコストの面からも難しいので、大きなバスに2、3人しか乗っていないという状況はよくある。バスは減価償却の期間が長いので、簡単に買い替えは効かない。ただ、バリアフリーの観点からノンステップバスを導入する、燃費が良いバスを導入するという傾向もあるので、国交省の補助金を利用して買い換えるということも考えられる。

経営効率と市の財政は非常に重要なことであるので、どこを1番重要視するのか絞って考えないと議論が難しくなる。古賀市に最適なものを議論できたらよい。

(委員)

- ・地域によって課題も様々であるので、地域に応じた手段を考えられればよい。事務局から古賀市の公共交通の現状における課題の説明があったが、自治体の考える課題と市民の考える課題とが共有されていないと結論が違う方向に行く可能性があるがあるので、よく議論していただきたい。

(委員長)

- ・今後はニーズ、ターゲットを把握して、手段を検討していくこととなる。バスに人が乗っていないという状況がある中で、明らかにニーズとして捉えられていないこともあるのではないかと、アンケートに組み込んで欲しいことがあればご意見をお聞きしたい。

(委員)

- ・新宮町や福津市はコミュニティバスが走っていて、商業施設もできている。古賀市がコミュニティバスを走らせるときは、イオンモールやイケアに乗り入れを検討して欲しい。そういったこともアンケートに入れるべき。

(委員)

- ・商業施設への乗り入れがあれば、そこからの寄付、協賛金がもらえるのではないかと。

(委員)

- ・新宮町、福津市への乗り入れについては、過去に検討されているが、現状はどうか話を聞いてみたい。市民の動線、意識が変わったのであれば、それが分かるようなアンケート項目を入れれば、再度話し合いができるのではないかな。

(委員)

- ・小型バスの話が出ているが、大型バスと比較して実際にはどのくらい安くなるのか。

(委員)

- ・数字的なものは難しいが、減価償却を過ぎて運行しているものについては、コストが相当安くなる。特にバスや鉄道は耐久性が高いので、買い換えるとコストが大幅に上がって、十年単位で赤字が続くということもあるので十分な検討が必要。

(委員)

- ・朝倉市ではコミュニティバスが買い物、病院、市役所などを回って100円、便利がよい。西鉄バスが古い大きなバスを使うのは西鉄バスの論理である。市民にとっても行政にとっても経営的によいものは何かを考える必要がある。

(委員)

- ・以前、古賀市で小さな10人乗りくらいのバスを運行していたと記憶しているが。そのときの利用状況はどうだったか。

(事務局)

- ・花見地域において委託で3年間の実験運行をしたことがある。西鉄宮地岳線の廃止に伴う代替措置である。利用は少なかった。

(委員)

- ・古賀西小学校の子ども達の通学での利用はあったが、それ以外は少なかった。宣伝が足りなかったのではないかな。

(委員)

- ・宣伝という点から、バスに乗らない人はバスの路線も時刻表も認識していない。便利かどうか乗らないから分からないが、イメージで不便じゃないかと思っている。習慣性の問題もあると言われている。

(2) 公共交通に関する市民アンケートについて

(事務局)

- ・資料「古賀市内の公共交通に関するアンケート調査」について内容の説明

(委員長)

- ・このアンケートは古賀市の路線バスに対する需要と古賀市民の移動の状況、方法を明らかにすることが目的。アンケートに対して意見はあるか。

(委員)

- ・乗らない方も対象にしているのは良いことである。バスの宣伝になるので、良ければバスの路線図を付けると良いのではないか。
全体として何件の配布で前回の回収率からするとどれくらいの回収を見込んでいるのか。

(事務局)

- ・全体で4,000件の配布としている。公共交通に関するアンケートが初めてであり、はっきりした回収率は見込めないが、50%には達しないと思う。
経験上では無作為抽出のアンケートは回収率が30%前後ではないだろうか。

(委員)

- ・高齢者が利用される方法、意見を掴めると良いので、できれば老人会とかで配布して聞き取ったり、家族に書いてもらうなどして、高齢者のデータが取り込めたらよいのではないか。

(委員)

- ・行政区ごとに100件ということだが、行政区によって世帯数にバラつきがある。
均質感が足りないように感じられるが、その点についてはどのように考えているか。

(事務局)

- ・世帯数が多い行政区には、多く配布してはどうかという意見でよろしいか。
その方法で配布、集計をすると世帯数が多い行政区の意見が全体の多数を占めることが考えられるため、今回は件数を合わせている。
また、今回のアンケートの目的として、地域ごとの特性を掴むということがあることから、件数を合わせている。

(委員)

- ・他の自治体の例はないのか。

(委員)

- ・アンケートの設問の設定は非常に難しい。効果は定量的に測れることである。地域特性の把握ということで行政区単位に100件ずつというのも考え方の1つである。1つ1つの項目については、もう少し精査させてほしい。

(委員)

- ・行政区は46だから4,600件ではないか。

(事務局)

- ・隣接する行政区で世帯数が少ないところ同士など、地域性の変わらないところについては、行政区を合わせて100件とさせていただいている。

(委員)

- ・このアンケートから出てきた地域特性を深めて、もう1回アンケートをするということは予定しているのか。

(事務局)

- ・今年度については、1回の予定である。来年以降については、まちづくりの変化、ニーズの変化などもあるであろうことから、必要に応じて実施する必要があると考えている。

(委員)

- ・アンケートの集計結果を提示するときに、行政区ごとの基礎データ、高齢化率などのデータを合わせて提示していただきたい。

(委員長)

- ・アンケートだけでは把握できない部分も多くありアンケートというものは完璧ではない。地域的な状況、地域の住民からのご意見については委員の皆さんからも教えていただきたい。
アンケートについては、これまでいただいた意見をもとに修正を加えて実施したい。この後もしご意見があれば事務局に電話やメールでも連絡をいただきたい。それで修正を加えた内容で実施することで承認をいただきたいがよろしいか。

(一同異議なし)

7. その他

(事務局)

- ・本日の会議の中でも、専門的な内容が出たが、事務局においてそのような質問に対応するため、西鉄バスの社員に話をしてもらう機会を設定することができるが、希望はあるか、あればおっしゃってほしい。

(委員)

- ・交通事業者に会議に参加してもらおうという考え方もある。地域の交通に1番詳しいのは交通事業者である。できれば参加していただければと思う。

(委員)

- ・全体のスケジュールを提示していただきたい。

(事務局)

- ・西鉄バスの社員の参加については、調整をさせていただく。全体のスケジュールについては後日、郵送させていただく。

(委員長)

- ・次回の開催については、アンケートの状況も合わせて事務局から連絡する。
本日の議事は全て終了したので、これで終了させていただく。